

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「はをへを つかおう」 教材名「はをへを つかおう」

2 単元の目標

助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。（〔知識及び技能〕(1)ウ）

語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（B(1)ウ）

助詞の発音と書き方の違いを確かめ、文の中で「は・を・へ」を使う学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）	①「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）	①助詞の発音と書き方の違いを確かめ、文の中で「は・を・へ」を使う学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

助詞の発音と書き方の違いを確かめ、文の中で「は・を・へ」を使う。この教材では、直す前の文、直した文、直した理由を並べた記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

独自例「ぼくわ こうえんえ いきました」を声に出して読み、発音と助詞の書き方を分けて確かめる。文末に指を置いて区切りを確認し、児童自身の文にも同じ観点を使う。想定する難しさは、間違い探しだけにして意味を確かめない、教師の正答を写して直す。評価では、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫しているかを、直す前の文、直した文、直した理由を並べた記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全3時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 教師作成の文「わたしは 本を よむ」「学校へ いく」を読み、語のつながりを確認する。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○教師作成の文「わたしは 本を よむ」「学校へ いく」を読み、語のつながりを確認する。自分の文で助詞と句点を読み返し、直した理由を話す。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第3次	3	○読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習前後の記録を比べて、確かめたことをまとめる。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (2/3)

(1) 本時の目標

語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(B(1)ウ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「声に出した音と、文に書く文字の違いはどこですか」 【めあて】助詞の発音と書き方の違いを確かめ、文の中で「は・を・へ」を使う。 〈予想される児童の反応〉 ・「わたしわ」の文字を確かめたい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「声に出した音と、文に書く文字の違いはどこですか」 教師作成の文「わたしは 本を よむ」「学校へ いく」を読み、語のつながりを確認する。自分の文で助詞と句点を読み返し、直した理由を話す。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・「わたしわ」の文字を確かめたい。 ・だれがしたことか分からない。 ・ここで文を切ると読みやすい。	独自例「ぼくわ こうえんえ いきました」を声に出して読み、発音と助詞の書き方を分けて確かめる。文末に指を置いて区切りを確認し、児童自身の文にも同じ観点を使う。 想定する難しさ：間違い探しだけにして意味を確かめない、教師の正答を写して直す。 評価では、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫しているかを、直す前の文、直した文、直した理由を並べた記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 直す前の文、直した文、直した理由を並べた記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・ここで文を切ると読みやすい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「声に出した音と、文に書く文字の違いはどこですか」。中央は、直す前の文、直した文、直した理由を並べた記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

